

海を伝える IP の今： 「海辺の環境教育フォーラム 2024 in ふくしま」に向けて

鹿谷 麻夕（しかたに自然案内）

キーワード：海辺、環境教育、自然体験

1. 海辺の環境教育フォーラムとは

「海辺の環境教育フォーラム」（通称：海辺 F）は、海の環境教育や自然体験活動に関心のある有志が全国から集う、ゆるやかなネットワークです。参加する人々は、エコツアーガイド／ダイバー・インストラクター／水中カメラマン／水族館スタッフ／環境教育事務所や自然学校のスタッフ／研究者や大学教員／水産・漁業関係者／アーティスト／大学生／とりあえず海が好きの人など、海との関わり方も様々です。

2001 年に始まり、これまで 1～2 年に 1 回のフォーラムミーティングや、他団体とのコラボレーション事業を展開してきました。コロナ禍前までは全国各地の開催地に集まり、2020～21 年はオンラインフォーラムを行いました。

海辺 F は有志ボランティアによる運営です。フォーラムミーティングの最後に「次のフォーラムをやってみたい人や地域はありませんか？」という呼びかけをします。その時「やりたい！」と声を上げる人から始まり、有志を募って組織される実行委員会形式で企画運営が担われ、フォーラム終了と共に解散します。フォーラムに参加して楽しかった！もっと話したい、別れるのが名残惜しい！という気持ちが高まっている時間に「次のフォーラムは…」と切り出すのが、継続の秘訣の 1 つかもしれません。

また、普段の海辺 F はメーリングリストによる情報交換を行ない、ウェブサイト運営やコラボ事業、前後のフォーラムミーティングをつなぐ役割として「通年事務局」を置いています。

メンバーが無償で協力し合う体制（＝やる気のある人だけ）であることと、通年事務局はあくまで「つなぎ役」とどまり、テーマもやり方もその年の実行委員会に全て任せる形が、ある種の風通しの良さを保っているように思われます。環境教育や自然体験の担い手が集まる場や団体は



図1 第13回（2017年 千葉県南房総市）：地引網へ！

全国的にいくつかありますが、主なフィールドは陸域です。そして、陸と海では活動に必要なスキルがかなり異なります。海をテーマに活動する人にとって、全国規模の集まりがそれまで他になかった※1ということ、またダイビングなど特定の業界や研究・教育分野だけでなく、個人で活動する人を含め、お互いがフラットな関係で出会える場であることも、人が集い続ける理由の 1 つかもしれません。

フォーラムミーティングの他には、助成金を得ての教材開発や、サンゴの市民調査「サンゴマップキャラバン」、オンラインによるセミナー企画も行なわれてきました。

※1 国交省系の一般財団法人みなと総合研究財団が事務局を担う「海に学ぶ体験活動協議会（CNAC）」は 2006 年設立

2. 海のプログラムの「一般公開日」

フォーラムミーティングでは、その時々海の課題を出し合い、分科会等で議論しています。さらに一般の人や子どもたちに対して、海にもっと親しみ、海を安全に楽しむでもらうために、また海をもっと理解して、環境保全につながっていくために、どうやって海を伝えるかを考え続けています。その表れの 1 つが、第 9 回石垣島で初めて行われた「一般公開日」です。

石垣島では、小中学生による公開討論や、地域の方が立ち寄れるお祭りの形を取りました。その後、震災による津波被害の翌年に環境水族館アクアマリンふくしまで行われた第 11 回では、フォーラムに集まった参加者が、それぞれの持ちネタを水族館の来館者に無料ワークショップとして行う「こども海の日」を開催しました。これは、水族館

と来館者にとって初めてのプログラムを体験できただけでなく、参加者同士がお互いの「海の伝え方」を披露し合う場として、大きな刺激を得られるものでした。

一般公開日を設けるかどうかは実行委員会次第ですが、第12回沖縄と第14回伊豆でも、全国から集まる海のプロにより、開催地域への一般公開・プログラム体験の場が作られました。

3. 海を伝える IP

海の自然体験が陸と異なる点として、自然条件の影響（潮汐、波浪等）がかなり大きく実施日時が限られる、釣りやカヤックなど体験そのもののレジャー要素が強い、スノーケルやダイビングは体験中の解説行為が限られる、などがあります。生きものを扱う場合、昆虫や鳥などと比べて見慣れない生きものが多く、基礎的なこともあまり理解されていません。そうした中で、「海を伝える」プログラムは様々に工夫されています。野外では体験活動系や自然観察系。荒天時や海から離れた場所でもできる室内プログラムには、クラフト系やアート系、クイズや双六などを楽しみながら情報を伝える学び系、海の生きものの特徴などを体験的に理解する、標本や模型を使ったワークなどがあ



図2 第11回（2012年 福島県いわき市）：クジラの実物大模型をビニールで作る！

ります。今後、IPをより意識してプログラムを見直していけば、さらに進化した「海を伝えるIP」が生まれていくでしょう。

今年10月、12年ぶりにアクアマリンふくしまでフォーラムが企画され、「こども海の日」も開催されます。テーマは「海といっしょ、森といっしょ、地球といっしょ」。森・川・海のつながり、地震や津波が繰り返される中での海辺の活動、子どもたちと海、という3本立てです。今まで海辺Fを知らなかった皆さん、海を伝えるプログラムに関心のあるみなさん、ぜひ参加してみませんか？※2

※2 海辺 F2024 ウェブサイト <https://umibef.com/2024fukushima/>

表1 海辺の環境教育フォーラムの開催一覧

回	年	場所	テーマ	参加人数
1	2001	静岡県賀茂村		90名
2	2002	静岡県賀茂村	環境教育としてのベースの自然科学	100名
3	2003	沖縄県石垣市	学校教育と海辺の環境教育	120名
4	2004	静岡県賀茂村	学ぶ、出会う、始める	90名
5	2005	高知県室戸市	“鯨（いさな）の海”で環境教育をホエール！	91名
6	2006	沖縄県読谷村	海でつながれ、サンゴでつなげ！	100名
7	2007	神奈川県三浦市	サンゴ礁のある豊かな海を、未来へ	90名
8	2008	兵庫県姫路市	里海で地域と共に海辺の環境教育を展開しよう	103名
9	2009	沖縄県石垣市	海の未来・こどもたちの未来 一般公開「海童祭（うみわらびーさい）」	120名 一般公開 500名
10	2010	秋田県八峰町	命をはぐくむ大いなる水の循環	
11	2012	福島県いわき市	心に海をとりもどそう！ 一般公開「こども海の日」	117名（一般101+学生16） 一般公開 のべ1884名
12	2014	沖縄県那覇市	つなげよう、海心（うみぐる） 一般公開「海がっこう、海あしび」	160名（一般98+学生62） 一般公開 約1000名
13	2017	千葉県南房総市	大人の本気の海遊び	64名
14	2019	静岡県伊東市	This is IZU-ism（伊豆イズム） 一般公開「伊豆高原学園が海辺になる日」	90名（一般75+学生15）
15	2020	オンライン	Web でつながる人と海	99名（2日）
16	2021	オンライン	ひとむかし、ひとみらい、ひととうみ	40名（1日）
17	2024	福島県いわき市	海といっしょ、森といっしょ、地球といっしょ 一般公開「こども海の日」	定員100名